



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 225

2015/06/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 線刻のある礫

02. セミが鳴き始めました



今月の一枚



Photo

「エゾノウワミズザクラ」

表紙写真・文／八重柏誠

近年、まれに見る大雪の年となった美幌町ですが、春は駆け足でやって来て、平年よりも早く桜が満開になりました。

博物館周辺では、今年も様々な種類の桜が美しい花を咲かせていました。中には白い花を咲かせた桜もあります。エゾノウワミズザクラです。アイヌ語で、「キキンニ」とも呼ばれているこの桜は、美幌町豊岡を流れる沢沿いに、数多く見られたことから、その周辺をキキンと呼んでいました。博物館周辺の昔の呼び名である木禽（ききん）原野の名の由来にもなっています。

Event. 今月のイベント

企画展「寄贈資料展」 6月7日(日)～7月5日(日)

博物館講座(自然編)「マルハナバチから学ぶ生き物のつながり」 6月6日(土),7日(日)

プチ工房「マーブリングと折り染め」 6月11日(木),18日(木)

博物館講座(歴史編)「粘土をこねて土器をつくろう」 6月13日(土)

モノ作り講座「ガラス玉をつくろう」 6月27日(土),28日(日)

Information. 参加者募集

博物館講座(自然編)「マルハナバチから学ぶ生き物のつながりセイメイオオマルハナバチの調査を通じて見えてきたこと

【講演会】●6/6(土)16:00-17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●石井博(富山大学) ●申込み不要

プチ工房「マーブリングと折り染め」

●6/11(木),18(木)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円) ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(歴史編)「粘土をこねて土器をつくろう」

【土器作り】●6/13(土)9:30-11:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料(600円),汚れても良い服装,タオル【野焼き】●7/4(土)9:30-14:00 ●美幌みどりの村キャンプ場 ●汚れても良い服装,軍手,昼食,飲みもの ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(5/1-6/10)。【野焼き】のキャンセルは7/1(水)まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。定員16名。

モノ作り講座「ガラス玉をつくろう」

●6/27(土),28(日)【午前の部】10:00-12:00,【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料(600円),エプロン,お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-6/24)。対象は小学校3年生から一般、小学生以下は保護者の同伴が必要。各回定員8名。

博物館講座(芸術編)「美幌の土で絵の具を作ってみよう」

●7/11(土)9:30-12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円),エプロン,手ふき ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-7/8)。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。定員16名。

今月の休館日

1日, 8日
15日, 22日
29日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

線刻のある 礫（れき）

写真・文／八重柏誠



先日まで実施していたミニ展示「稲美の遺跡」では、町内の稲美地区に立地する遺跡から出土した遺物を公開していました。展示会では、縄文土器や黒曜石で作られたヤジリ・石槍などに混じって、少々風変わりな遺物も展示されていました。ピラオツマッコウマナイチャシ跡遺跡から出土した刻文付石製品（こくもんつきせきせいひん）です。礫の表面を削器のようなすどい刃を使い、引っ掻くようにして模様を描いたのでしょう、扁平な礫の縁辺部に、「く」の字状の細い線刻が連続して描かれています。一般的に線刻礫（せんこくれき）と呼ばれているこの石器は、ヤジリやナイフのような実用的なものではなく、使用用途のわからない非実用的な石器として扱われています。ピラオツマッコウマナイチャシ跡遺跡から出土したものについても、装飾品や祭祀儀礼などに用

いられたのではないかなど、様々な用途が想像されていますが、実際には何のために使われたものなのか、よく分かっておりません。

線刻礫は、少ないながらも日本各地の遺跡から、ちらほらと見つかります。特に有名なものと言えば、愛媛県久万高原町の上黒岩岩陰遺跡出土のものです。女性をモチーフにした線刻が礫に描かれており、別名「ヴィーナス像」とも呼ばれています。美幌町で見つかったものとは、雰囲気は異なるものではありますが、礫に願いを込めて線を刻んだことには変わりないでしょう。数千年を経た現代に、摩滅することなく残っていた線刻は、縄文人の想いの強さを現しているのかもしれない。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

セミが鳴き 始めました

写真・文／鬼丸和幸



博物館裏にある「みどりの村森林公園」では、エゾハルゼミが鳴き始めました。この公園では、これから夏にかけて、エゾハルゼミ、コエゾゼミ、エゾゼミ、エゾチッチゼミの4種類のセミを見ることができます。天気の良い日など、散策コースを歩いてみられてはいかがでしょうか。

古代、中国では、セミの形を象った「玉蟬」という小さな玉を、遺体の口などにつめていたと言います。セミが、幼虫の姿で長い歳月を地中で過ごし、やっと地上にセミの形となって現れるという姿を、「生まれ変わり」の思想とダブらせて、崇拝したと言います。同様に、南フランス地方では、セミは「忍耐強い」「太陽の申し子」ということで、幸福のシンボルとして、民芸品などのモチーフとなっていたりします。

セミはなぜ長い歳月を、幼虫として

地中で過ごさなければならないのでしょうか。セミの幼虫は、植物の根から水分を吸って生きています。植物の茎や根には、水が運ばれる導管という管と、葉で作られた栄養分が運ばれる師管という管がありますが、セミの幼虫は、この導管にくちばしを刺して汁を吸っています。しかし、導管の汁にはわずかな栄養分しか含まれていないため、幼虫が大きくなるのに時間がかかってしまうのです。逆に、地上に出て羽化した成虫は、師管の汁を吸います。成虫は、短い期間に、飛んだり、結婚したりしなければならず、栄養豊富な師管の汁を吸ってエネルギーを蓄えるのです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



季節の変わり目と、年齢相応の体力低下のせいか、ひいた風邪が全然治りません。体には良くないと思っているものの、毎日2本のオロナミンCを飲むのが日課となりました。「風邪を治すには寝ること」と言いますが、自分の場合は、寝てもあまり良くなったためしがないので、無理にでも動いていれば治るのでは？と勝手に思っています。

(鬼丸)